



# Global mini

グローバル・ミニ



福島オンライン・  
チャリティ・ラン報告  
「現場を知らな  
きゃ」

P3



特集

新OM日本総主事  
「祝福となりなさい」

P2



特集 P5-6

緊急募集

ウクライナ難民  
支援活動&献金



P4

ロゴス・ホープ号報告  
コロナ禍での乗船で



海外短期宣教  
募集要項 P5



連載

MY JOURNEY  
Ex-OMerの歩み

P4

戸惑いと葛藤の中で



新OM船 P5

ドウロス・ホープ号

DOULOS HOPE

OMのミッションステートメント：私達の願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形作られることです



船越信哉

# 「祝福となりなさい」

2022年4月よりOM日本の総主事に就任しました船越信哉です。私たち家族は兵庫県にある加古川バプテスト教会から、世界宣教船ロゴスホープ号に遣わされました。2017年9月、ドミニカ共和国にて乗船。カリブ諸国、中央アメリカ、南米、計18カ国・32の港を巡り宣教。2019年9月ブラジル・サントスで下船し、帰国しました。2019年10月からは、OM日本の巡回宣教師として日本各地の教会を訪問し、OMの働き、特にロゴスホープ号の証を中心に世界宣教について分かち合いをしてきました。そして2022年4月、前総主事のスミスドルフ氏よりバトンを受け継ぎました。

## 「祝福となりなさい」

主は私たち一人一人の人生を祝福したいと願っておられます。そして私たちの人生を通して、この日本を、世界を、祝福したいと願っておられます。「こんな私が役に立てるのだろうか？」自分自身に目を向ける時、視野はどんどん小さく狭くなります。「自分だけの幸せ」「安定した居心地の良い生活」。しかし私たちが主に目を向ける時、視野は大きく広げられます。『さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。あなたの子孫は、このようになる。』**私たちの人生を通して世界を祝福するという主の約束。**それは私たちの考えや計画を遥かに超えた、主が用意されたアドベンチャーです！

『自信』と『確信』は、よく似た言葉ですが、全く違うものを土台としています。『自信』とは自分の価値・能力を信じること。自己を信頼する心。『**自信**』の土台は**自分**です。必ず崩れ去る時がきます。

『**確信**』とはかたく信じていること。信じて疑わないこと。そして私たちクリスチャンだけが出来る『**確信**』の定義があります。それは「**確かなものを信じる**こと」。『**確信**』の土台は、**確かなお方イエス・キリスト**です。私の罪のために十字架で死に、墓に葬られ、三日目によみがえられたイエス・キリスト。揺らぐことのない、唯一信じて間違いのないお方、救い主イエス・キリスト。このお方が、私たちの人生の土台となってくださいました。

## OMのビジョン

「私達の願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形作られることです。」

## OM日本の現在

現在OM日本は、**東北・関東・北陸・東海の4つの地区**に拠点を置いて働きをしています。

各地区には2つずつのチームがあり、

地域教会との協力、教会のない地域での家の教会、弟子訓練プログラム、アートミニストリー、特別な課題を持った方々に寄り添う働きなど、それぞれが主に導かれた方法で生き生きと宣教しています。

2022年4月現在、OM日本には大人44名・子ども31名が所属しています。日本を愛する明るく楽しいチーム、素晴らしい神の家族です。**OM日本を紹介した新しいビデオが完成しました。**ぜひご覧ください。



## exOMer 祈禱会に参加

exOMerとは、OMを通して世界宣教に参加したことがある人たちのことです。昨年度から『exOMer 祈禱会』がオンライン

で始まりました。春・夏・秋・冬と季節毎に行われ、多い時には20名近くの方が参加しました。懐かしい再会や新しい出会いが与えられ、祝福された時間を過ごすことができました。



## 「現場を知らなきゃ」

井上希

左&右下：地震で崩れた外壁や瓦礫の撤去作業を行うOM宣教師。  
右上：OBJの運営する学童保育にて子供たちと

今回、福島のための支援イベント「福島オンライン・チャリティー・ラン」(下部に記載)の企画運営に携わり、このイベントで得た献金の支援先に、震災以降、福島で活動する災害・人道支援団体オペレーションブレッシングジャパン(OBJ)を選ばせていただきました。しかし「福島を応援するためには、現地に足を運んで、ちゃんと現場を知らなきゃ」と思い、災害支援と学童保育の両面から体験でそれを知る機会が与えられました。震災後、人口流出や高齢化の加速化が進んでいると聞いていましたが、災害ボランティアで訪れたお宅も、高齢でひとり暮らしの方が多かったです。

最近の地震で崩れたブロック塀や災害ゴミが庭先に散乱していて、これをひとりで片付けるのはどれだけ大変なんだろうと思いましたが、そこにOBJが訪問して、住民の方のお話を傾聴し、時には何度も足を運んで片付けと見守りを行っていました。信頼関係を築きながらの作業なので、住民の方にとってはとても心強いただろうと思いました。

また、学童保育にも参加させていただきました。私はOM宣教師として、8年間ミャンマーで孤児支援に関わっていましたので、福島の子供たちと一緒にミャンマーにまつわるクイズをしたり、英語でふれあう機会をつくって下さいました。日本はミャンマーと違って、食べ物や着るものなど物質的には十分満たされていますが、福島では心の問題を抱えた若者が多いと感じました。お話の時間では「美味しいご飯が食べれたり、愛する家族がいることは決して当たり前ではないこと。また、子供たち一人一人が、神様から愛されている尊い存在であること」を伝えることができました。

この体験を通して、より具体的に福島のために祈り、できる支援を考えることができる、という想いが強くなりました。寄付だけではなく、これまでの働きで培った技術や、自分の得意としている分野を活かして、度重なる地震被害で疲弊している福島のために貢献できたらと思いました。



OM日本のオフィシャルビデオがYouTubeで観れます。日本語/英語字幕 時間：2分



## 日本から海外へ

現在OM日本から海外に遣わされている宣教師は、ロゴスホープ号をはじめ、東アジア、オランダ、オーストリアで活動中です。最近、オーストリアでは特に、難民の方々への奉仕宣教活動を行なっています。世界110カ国のOMが協力しながら宣教を展開しています。

これまでのみなさんのお祈りと捧げものに心から感謝します。これからもどうぞOM日本のために祈りをもって支えてくださいますよう、よろしくお願いいたします。

またOM日本の働き、海外での宣教に興味を持っておられる方は是非OM日本事務局までご連絡ください。私たちはあなたを通して主の御心になることを願っています。

次回『exOMer祈禱会』は7月22日(金) 20時~21時30分を予定しています。興味のある方は、船越信哉までご連絡ください。Eメール：shinya.funakoshi@om.org

## 福島オンライン・チャリティー・ランとは？

OM東アジア16カ国で、それぞれの国が企画した、スポーツを通じたイベント。OM日本は震災後11年が経過した福島のため、災害・人道支援団体OBJに献金するためにオンラインチャリティーランを企画した。

参加人数：約126名  
総エントリー数：142  
献金総額：18万円



上：5月21日のオンライン表彰式の様子  
下：チャリティーラン参加者の投稿写真





## 2021年、ロゴスホープ号に乗船し、1年の奉仕を終えた野口聖恵さん(三重県)の証です



私は2021年2月から2022年2月の1年間、ロゴスホープ号へ乗船してきました。

乗船を決意した直後にコロナが発生し、正直のところ、乗船は難しいのではないかと諦めかけていました。しかし、英語のテストも合格し、船側は受け入れをするということだったので、乗船へ向けて準備を進めていきました。

出国当日、空港はガラガラで、フライトがキャンセルにならないか不安もありましたが、主の守りの中で目的地へ到着できました。ホテル隔離を2週間した後、無事に乗船することができ、そのときは本当に奇跡としか思えませんでした。

乗船後、トレーニング等を終え、私は清掃部署へ配属されました。日本では事務仕事をしていたため、**体力的に、また慣れない英語に四苦八苦**しましたが、お互いに**助け合い支え合う**。そして**共に祈り合う大切さ**を、仲間を通して学びました。

乗船中、一番の試練は、**船内でのロックダウン**でした。12月の半ば、アフリカのシエラレオネからガーナへ向けて航行しているある日の午後、キャプテンから感染者がでたというアナウンスがありました。突如、船の雰囲気は一変し、必要不可欠の仕事や用事がない限りは、全員部屋から出ないようにと指示されました。日に日に、**感染者は増え、ガーナ到着後によく感染者は病院へ搬送**されました。

その後も感染者は増え続け、私は、「もうすぐ下船が近いのに、これからどうになってしまうだろうか。」と不安で一杯になりました。でも、先が見えない中、一つの証を聞きました。それは、**搬送された病院の看護師さんがロゴスのクルーを通して救われた**ということです。その看護師は18歳の方で、クリスチャンホームで育ちましたが両親を早くに交通事故で亡くされ、それ以来、教会から離れていました。ですが、クルーとの日常会話の中で導かれ、また主と共に歩みたいと決心されたのです。この証を聞いたときに、彼の為にこの災難も起きたのではないかと思います。

ロゴスの経験を通して学んだことは、**状況は関係なく、主の計画は、時に叶って美しい**ということです。コロナ禍ではありましたが、主の一つ一つの導きに感謝です。



## 祈ろう

ロゴスホープ号には現在、下記の3名が乗船しています。体調が守られ、また霊性の面でも高められますよう。  
木村真梨江(岐阜県) 深水典幸(神奈川県) 遠藤栄希(北海道)

## 行こう

ロゴス・ホープ号

- 📍 世界中
- 📅 1年間または2年間
- 👤 ロゴス・ホープ号には常時60カ国から300人以上の人がボランティアアクルーとして乗船。様々な国を航海し、寄港先と船内でミニストーリー。ロゴス・ホープ号乗船中は、毎日決められた部署での仕事を行い、さらに様々な形式の宣教と弟子訓練に参加していく。

以前OM宣教に関わった人たちの、帰国後の歩みをテーマにしています。

# MY JOURNEY

## Ex-OMerの歩み

鎌内晴香



ロゴスホープ船(以下LH)を経験したクリスチャンにとって、**下船してからの日々はチャレンジ**です。2018年6月に3年半の奉仕を終えて帰国した私もその一人でした。

**多種多様な文化と言語**にあふれる国々を25カ国旅し、LH船内も**60カ国の様々な種族や文化**がありました。24時間クリスチャンと過ごす生活を3年半。そんな生活から、日本のほぼ単一的文化に戻り、私の**頭はパニック**になりました。東京での満員電車や、デパ地下にぎっしり並んだ色とりどりのケーキやお惣菜に圧倒され、こんな豊かな場所に戻ってきた自分の気持ちをどうすればいいのが戸惑いました。慣れ親しんでいるはずの日本の生活に対して、**変わってしまった自分が違和感や不快感**を感じていました。

とまどう自分に、**主は助け舟をくれました**。当時OM日本の総主事であるスミスドルフ夫妻を通して、葛藤を覚える**気持ちをうちあける場**を作ってくれました。また、LH乗船中に経験した神様の御業をシェアしたり、ご夫妻が私の母教会に、一緒に来てくれたことにも助けられました。

私はその後、キリストの共同体を作るというビジョンをもつ東京・鵜の木教会の中で暮らすように導かれました。そこでは牧師さんや兄弟姉妹と一緒に神様に守られて生活することができました。自分の見返りを求めずに、近くで過ごす人に仕えている人と生活できたこと。これが私にとって一番の恵みでした。また、その教会を訪れる地方からのゲストや日本にきた海外宣教師との交流によって、さらなる恵みを頂くことができました。



陸の孤島といわれる三重県南部の漁師町で、10代の若者たちに自分の経験を話す鎌内さん

そんな中、次に私が経験した大きなショックは、**東京オリンピック組織委員会の働き**でした。日本人や日本社会のコミュニケーションや働き方と、**海外の方とのギャップ**の中で、私は常に板挟み状態でした。主はそんな私に、**社内でクリスチャンの仲間を与えて**くれました。コロナの中でもオンライン勉強会を通して、この世で働くクリスチャンとして、主である神に、また上司に、どう仕えるかについて学ぶ機会が与えられました。学びのおかげで、私は業務の上で、日本と他国の間での最善のバランスを探ることができました。またクリスチャンである自分が、物事を決定するために、**主が自分をそこに送ってくださっている**ことも教えられました。

LH終了から4年たった今、私は韓国という新しい場所で暮らし始めました。言語と歴史/文化を学び、日本人としてどのように関わっていくことができるのか。全ての経験をつなげて益として下さる神様に、**聞き従って行こう**と思っています。

# STM 短期宣教募集要項

## 宣教インターンシップ

- 📍 アイルランド 期間 2週間～1年間
- 📌 伝道、キッズミニストリー、ホスピタリティー、財務、人事、コミュニケーション・マーケティングなど、様々な分野で活躍できるチャンスがあります。シングル、既婚者、家族、チーム、いずれも参加可能

## 難民支援

- 📍 セルビア共和国 期間 2022年10月7-14日
- 📌 キャンプでの奉仕は、難民の方々への洗濯、お茶やコーヒーの提供、ティेंटや洗濯機の運営に関わる一般的な業務。業務の合間に、難民の方々と一緒に過ごし、私たちの信仰について分かち合うことが可能です。申し込み期限9月2日

## ロゴス・ホープ号 短期乗船 STEP

- 📍 ロゴスホープ 期間 2022年11月10日-2023年1月18日
- 📌 異なる国の人々と共に生活し働くことで、異文化間のクリスチャンの働き手に必要なことを直接体験することができます。船内では、週40時間、1日8時間の業務に従事します。アウトリーチ・チームは週1日で、指定されたミニストリー体験（船上でのプログラムや陸上でのイベント）に参加します。申し込み期限9月16日 18歳以上誰でも

## 新OM船ドゥロス・ホープ号



2022年5月25日、これまでよりさらに宣教エリアを拡大させるため、ドゥロス・ホープ号(DH)を取得しました。12-18ヶ月の改修工事の後、2023年の出航を予定しています。ロゴスホープより小型のため、これまで行けなかった港にも入っていくことができます。乞うご期待！  
全長:85.5m トン数:3370 クルー数:146名



## ウクライナ

OMウクライナのメンバーは現地に留まり、ウクライナ東部から西に向かって行く人々のために食料の配布や臨時避難所の提供をしています。また交通手段のない人のために車での送迎、安全な場所へ移動する助けを続けています。母親と二人の子供を連れて逃げていた女性、リアンに会いました。彼女は最初、自宅に留まるつもりでした。しかし大きなタンクローリーが手当たり次第に砲弾を撃ち、あらゆるものを破壊しながら通過していくのを見て、逃げる決心をしました。徒歩で逃げていた彼らを、ある人が他の町まで車に乗せてくれました。リアンの家族はフェイスブックを通じて、OMハウスと言う援助があることを知り、やっとの思いでOMハウスに到着し、そこで落ち着いて休める場所、温かいシャワーと食べ物を得ることができました。これまでにリアンの家族のような人々、数百人を支援してきました。

います。このネットワークを通して、既に数千のウクライナの人々がポーランド人の家庭に落ち着いています。

この他、ハンガリー、ルーマニア、モルドバにおいてもOMは国境を超えて入って来るウクライナの人々に避難所を提供し、食糧や物資を届けています。

## 神の国の広がり

ポーランドでは、各教会が難民の方々への援助について共通の目的を持ち、一致しています。またこの数週間にわたり、中央&東ヨーロッパのクリスチャンたちは共に祈り共に活動しています。そして避難してくる人々に自分の小さな家を開放し、ウクライナ語を学び、その人々の別離や死別の話に耳を傾け、キリストの慰めと励ましを分かち合っています。OMの役割。それは、クリスチャンたちが神様を知らない人々のために一致して奉仕する機会を提供すること。

主に従う人々が力に満たされ、神様の愛の真実な証人となることです。主の働きは国境で、避難民の間で、住居を提供した家々で起こっています。

## ポーランド

ポーランドの国境にある、最も人通りの多い交差点に設置された2台のトレーラー。ここで子供や赤ちゃん連れの女性のための避難所として必需品を提供し、毎日何百人という人々を支えています。そして彼らが住む家を見つけるため、OMポーランドは彼らのためにネットワークを立ち上げ、避難民を援助したいポーランド人と、助けを必要としているウクライナ人をつなげて



## 祈りの課題:

- 逃れてきている人々に神の守りと備えがあるよう。
- ウクライナ国内と隣国で奉仕するOMメンバーの健康、知恵、守り、霊性の一致が与えられるよう。
- 世界の指導者たちとこの戦いに、平和的な解決が与えられるよう。

5

## 広告欄

郵送料のコスト負担軽減のために広告欄をもうけました。広告掲載はOM日本事務局 info.jp@om.orgまでご連絡を



さあ、みんなでお広めよう。みことばを。  
神のことばはますます広まり、増えていった。(新約聖書より)

## 「コンサイスバイブル」アプリ

聖書を読んだことのない方が聖書の概要と中心テーマを理解出来るように、読みやすくまとめられた無料アプリです。ノンクリスチャンのご家族やご友人に、聖書の全体像をつかんでいただくことができ、そこからディスカッションも始めやすく、自信をもってシェアできるアプリです。



GLOBAL BIBLE INITIATIVE (GBI) は米国テネシー州 ナッシュビル市に拠点を置き、聖書翻訳及び世界宣教を目的とした団体で、現在、米国を始めグローバル範囲で活動を展開しています。https://gbi.llcをご参照ください。引用聖句は、GBIが翻訳し、著作権を有しています。翻訳は聖書全体ではなく一部になります。



いつ終わるのか...

## ウクライナ 避難民支援献金のお願い

## 緊急募集

2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻以来、680万人以上(5月31日現在)の人々が西側諸国に安全を求め、ウクライナの戦火から逃れて来ています。

皆様からの献金は、ウクライナ、ポーランド、ルーマニア、モルドバ、ハンガリーそしてスロバキア各国の現地OMチームにより、避難してきた方々の至急の必要のために用いられています。この悲惨な状況の中で、傷ついた人々を支えるために大いに用いられています。

OMのチームを通してこれまでに2415人のボランティアが、120,000人以上の人々に関わってくることができました。また18,000人以上の人々に食料品の配布、交通手段の手続きや避難所の準備、安全な場所の確保、また女性や子供たちへの援助をすることができました。

### 支援献金の使用用途：

- 移動中の難民への食料提供
- 衛生用品、水、毛布の提供
- 避難所での難民の誘導とサポート
- 思いやりと優しさをもって奉仕にあたる地元キリスト教会への支援

## 献金方法

「ウクライナ支援」と明記し、下記のOM日本事務所の口座までご送金ください

郵便振替口座02100-0-24998  
加入者名「OM日本事務局」

お問い合わせはOM日本事務局まで  
電話：076-239-2830

[www.omjapan.org/give](http://www.omjapan.org/give)

お祈りください：• 5月末現在にて600万人の避難民のため。

• 人々の安全な移動、シェルター、食料、水などの基本的な物資の提供、トラウマからの回復のため。



OM (Operation Mobilisation) は、世界約 110 カ国で 3200 名が活動している超教派の国際的宣教団体です。OM は世界宣教のために奉仕者の育成と、最も福音が伝えられていない地域への伝道、そして

イエスに従うものによる生き生きとしたコミュニティが形づくられ、それらが育成されていくことを目標としています。



### OM日本・OM Japan

 [www.omjapan.org](http://www.omjapan.org)  [fb.me/omjapan](https://fb.me/omjapan)  [info.jp@om.org](mailto:info.jp@om.org)

 +81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX)  〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394

 郵便振替口座 02100-0-24998 加入者名「OM日本事務局」

OM日本ニュース 第88号 2022年夏号

発行人：船越信哉

編集&デザイン：近藤健二